気象庁
Japan Meteorological Agency

全般季節予報支援資料
1か月予報

2025年5月29日

予報期間：5月31日～6月30日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

気象庁
Japan Meteorological Agency

特に注意を要する事項

出現の可能性が最も大きい天候

北日本と東日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

気象庁
Japan Meteorological Agency

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側	20:30:**50**	20:**40**:**40**	**40**:30:30	
	太平洋側		20:**40**:**40**	**40**:30:30	
東日本	日本海側	20:30:**50**	30:30:**40**	30:**40**:30	
	太平洋側		30:30:**40**	**40**:30:30	
西日本	日本海側	20:**40**:**40**	30:30:**40**	30:**40**:30	
	太平洋側		20:**40**:**40**	**40**:30:30	
沖縄・奄美		10:30:**60**	**40**:30:30	30:30:**40**	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	20:**50**:30	20:30:**50**	20:30:**50**
東日本	**40**:**40**:20	20:**40**:**40**	20:30:**50**
西日本	**50**:40:10	20:**40**:**40**	20:30:**50**
沖縄・奄美	10:20:**70**	20:30:**50**	10:40:**50**

気象庁
Japan Meteorological Agency

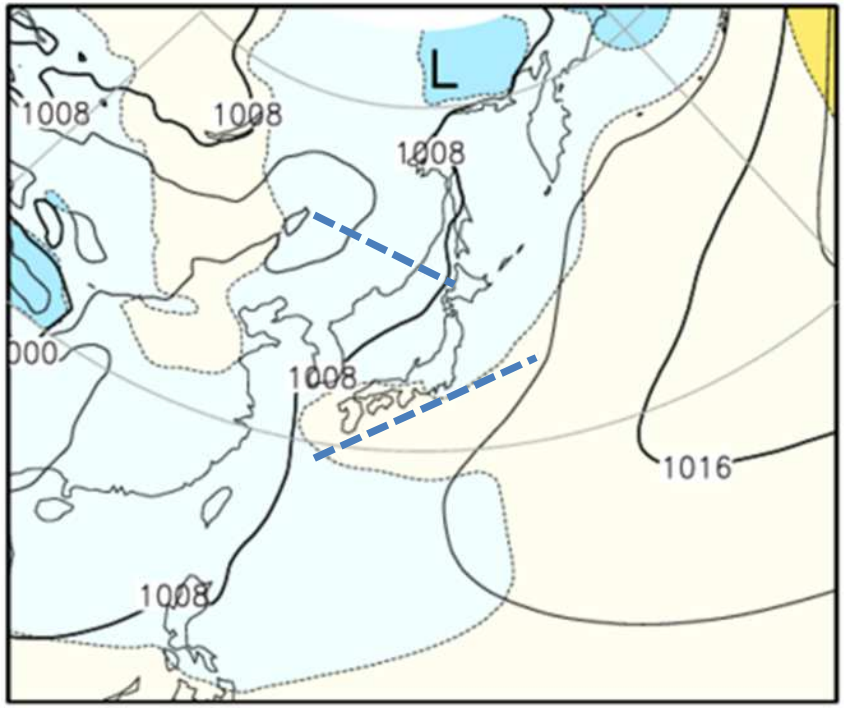
全般予報のポイント

・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、北・東日本と沖縄・奄美では高く、西日本では平年並か高いでしょう。
・北日本と西日本太平洋側では、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

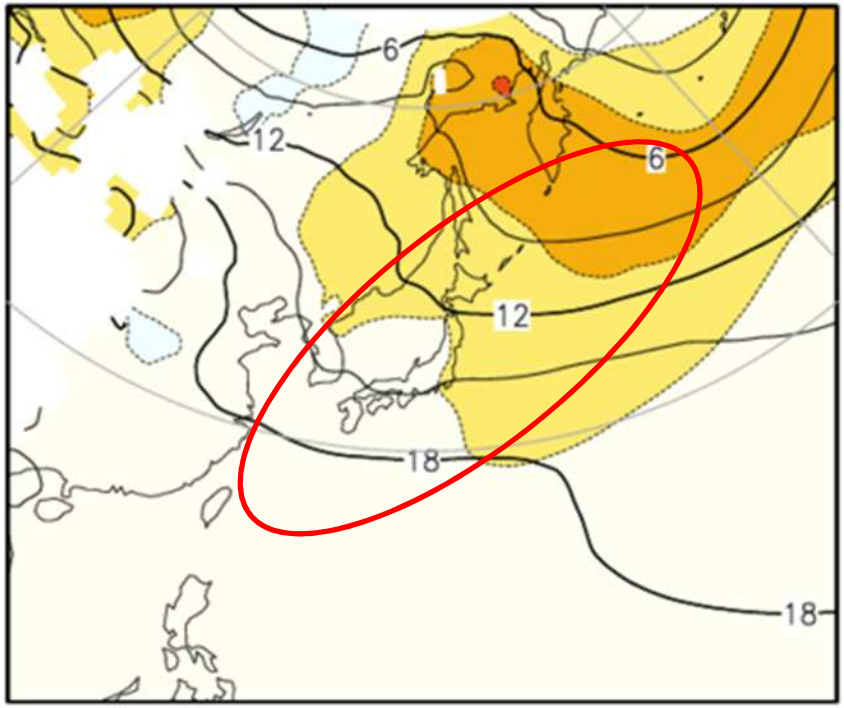
解説資料（数値予報モデルによる予測結果）

気象庁
Japan Meteorological Agency

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

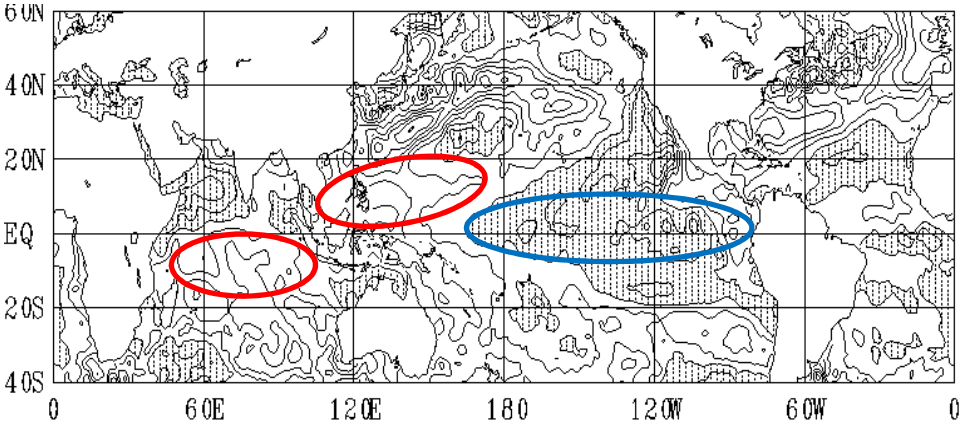


1か月平均の海面気圧（左図）は、平年と同様に、梅雨前線に対応する等圧線のくびれが本州南岸に予測されています。また、沿海州付近には気圧の谷が予測されています。これらのため、北・東・西日本では低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。
上空約1500mの気温（右図）は、北日本を中心に全国的に平年より高いと予測されています。

予報資料の解釈

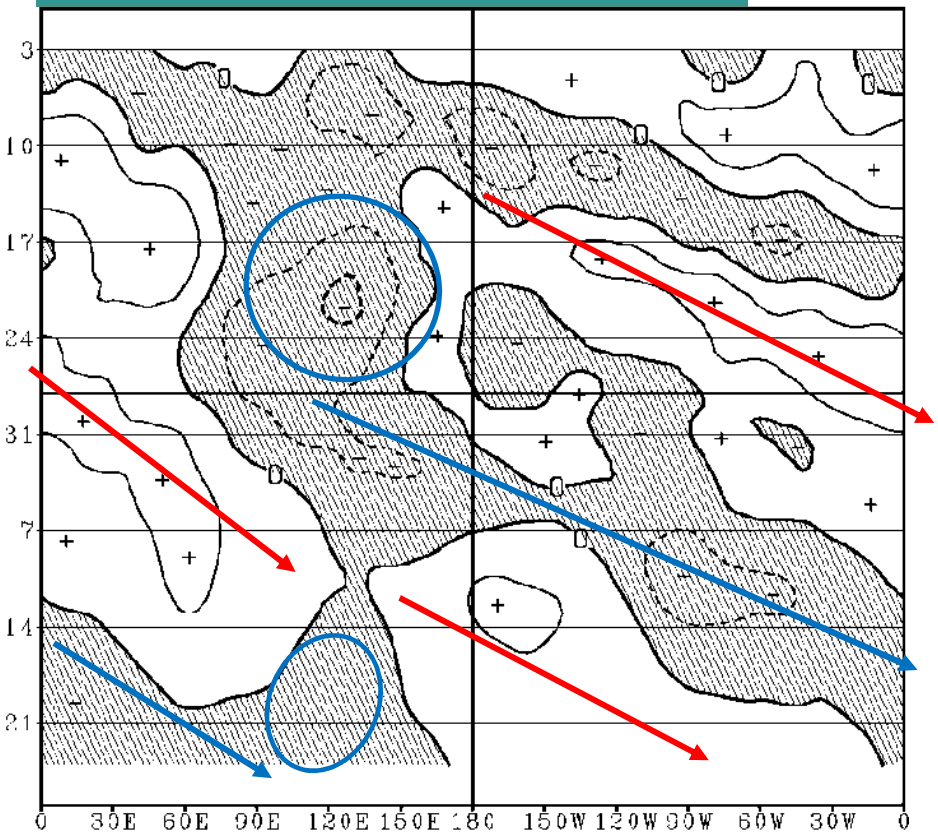
気象庁 Japan Meteorological Agency

SST偏差



熱帯域では、太平洋中部から東部で負偏差、インド洋と南シナ海からフィリピンの東にかけて正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差

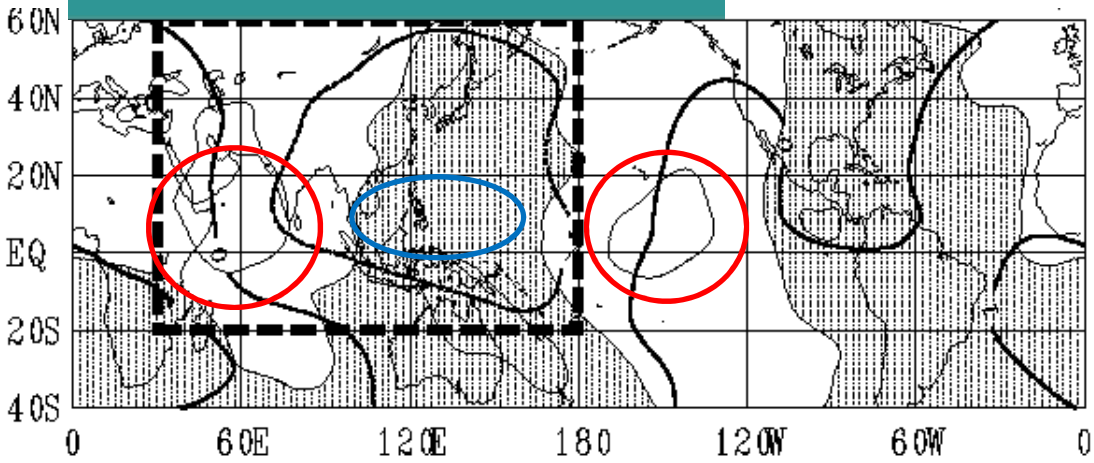


1週目から2週目にかけて、インドネシアから太平洋西部を対流活動域が東進、また、アフリカからインド洋を不活発域が東進。これらの変動に関わらず、インドネシア付近ではやや活発な状態が続く。

予報資料の解釈　1か月（5/31～6/27）

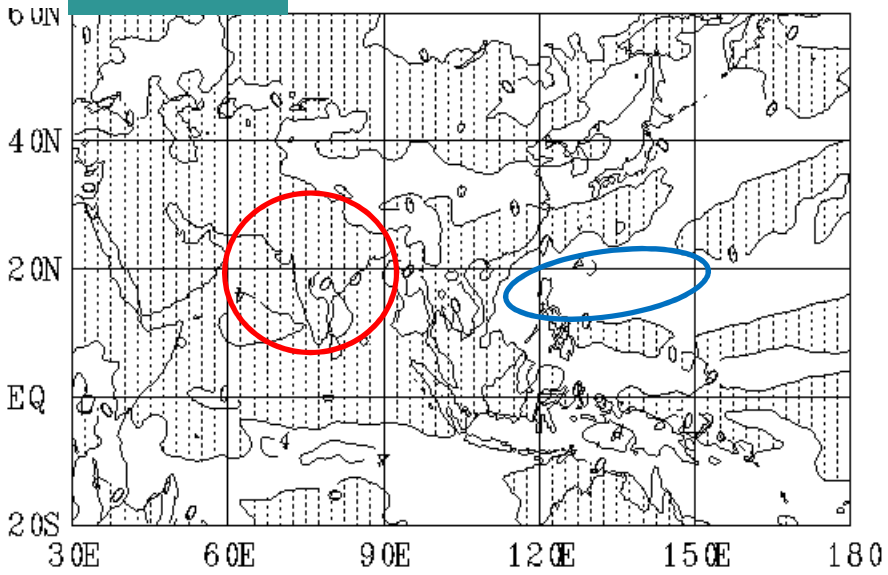
気象庁 Japan Meteorological Agency

200hPa速度ポテンシャル



熱帯域では、インド洋西部と太平洋中部で上層収束偏差、また、南シナ海からフィリピンの東方海上にかけて上層発散偏差。

降水量

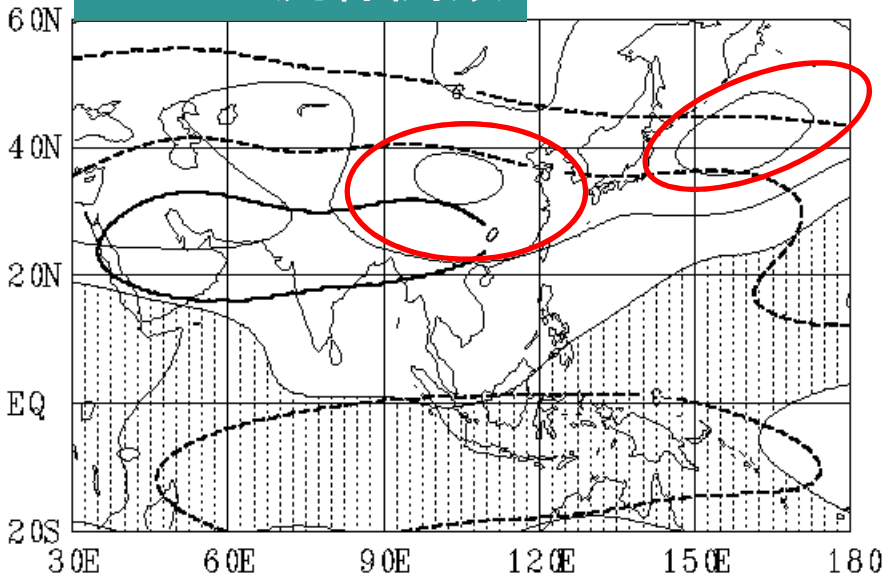


南シナ海からフィリピンの東方海上にかけて多雨偏差で、インド付近では少雨偏差。夏の熱帯季節内変動（BSISO）とSST偏差の影響がある。

予報資料の解釈　1か月（5/31～6/27）

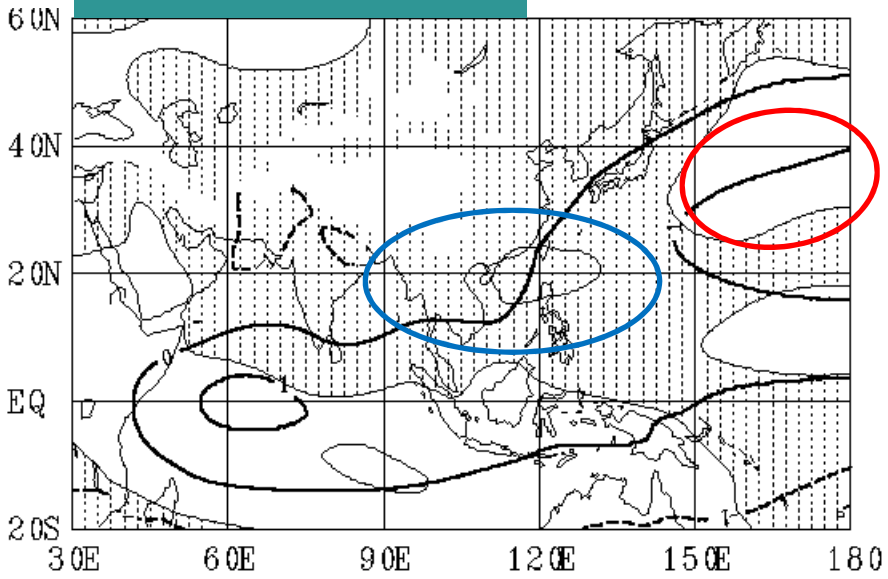
気象庁 Japan Meteorological Agency

200hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、華中付近を中心に高気圧性循環偏差。日本の東を中心に高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

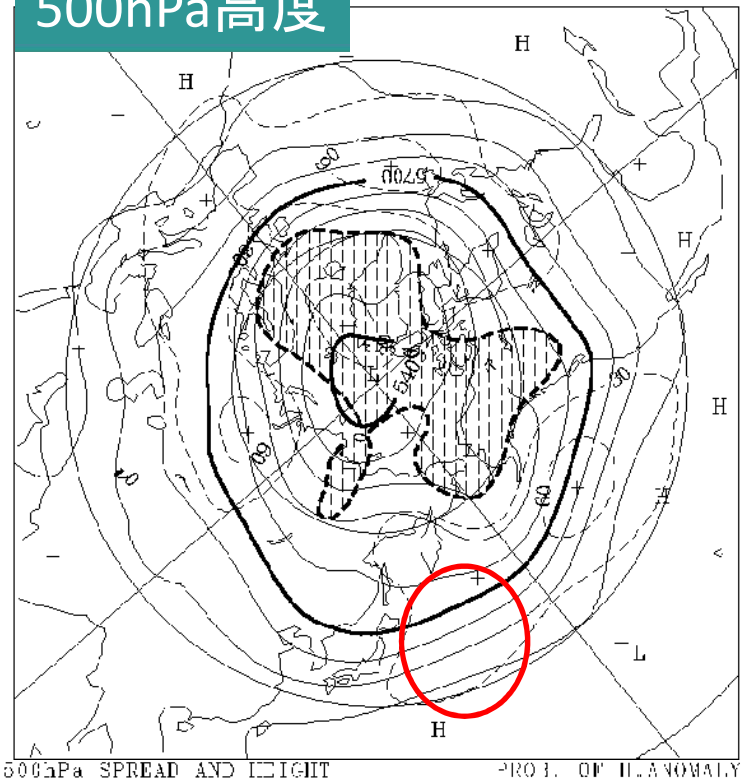


熱帯の対流活動に対応して、インドシナ半島付近からフィリピンの東海上にかけて低気圧性循環偏差。日本の東海上に高気圧性循環偏差。

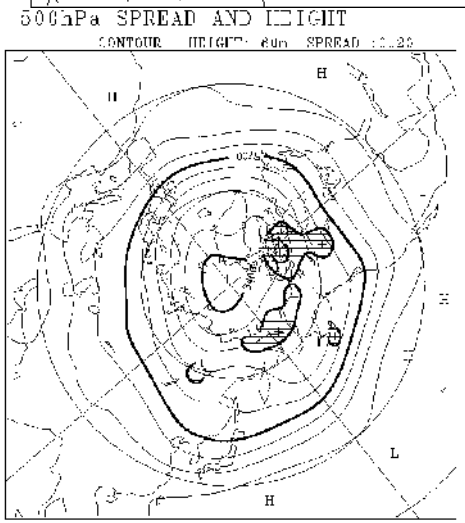
予報資料の解釈　1か月（5/31～6/27）

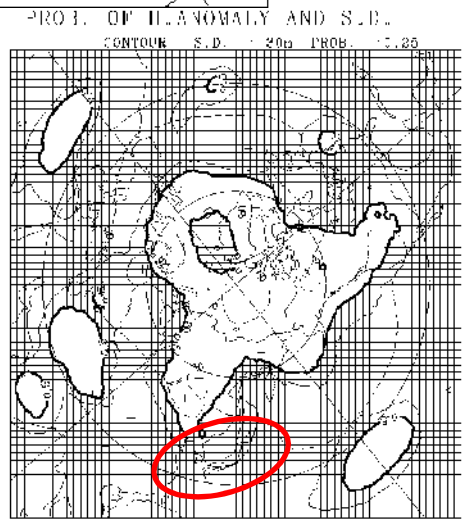
気象庁 Japan Meteorological Agency

500hPa高度



日本を含む広い範囲で正偏差。極東域では偏西風が分流し、日本付近は逆位相の流れ。これは、特に1週目の特徴を反映。また、日本の東でより高度が高く、日本付近は西谷が平年より深い。



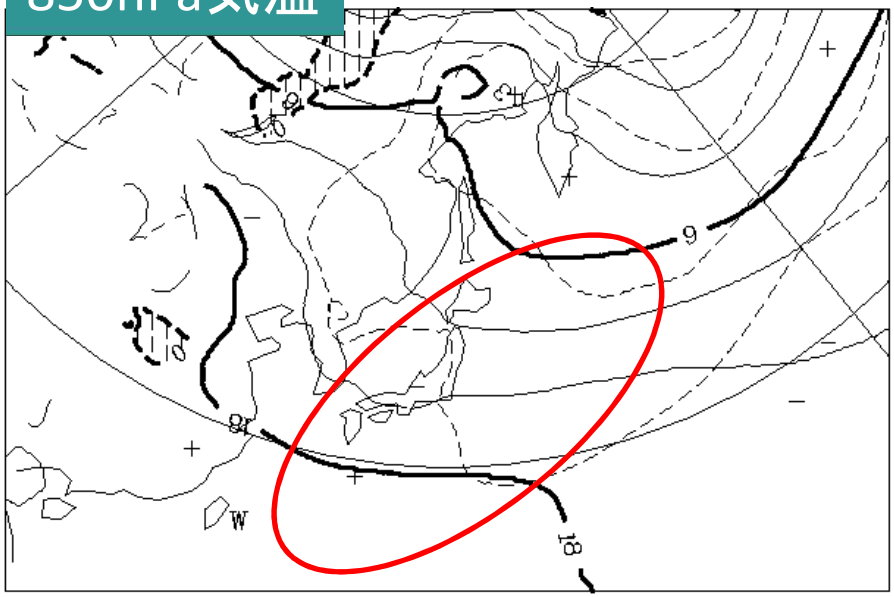


日本を含む広い範囲で正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

予報資料の解釈　1か月（5/31～6/27）

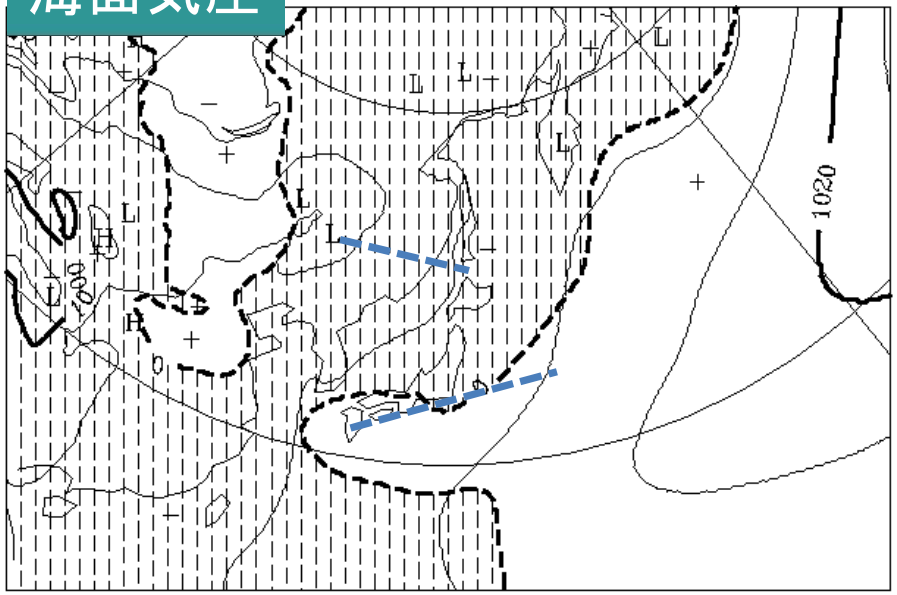
気象庁 Japan Meteorological Agency

850hPa気温



日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧

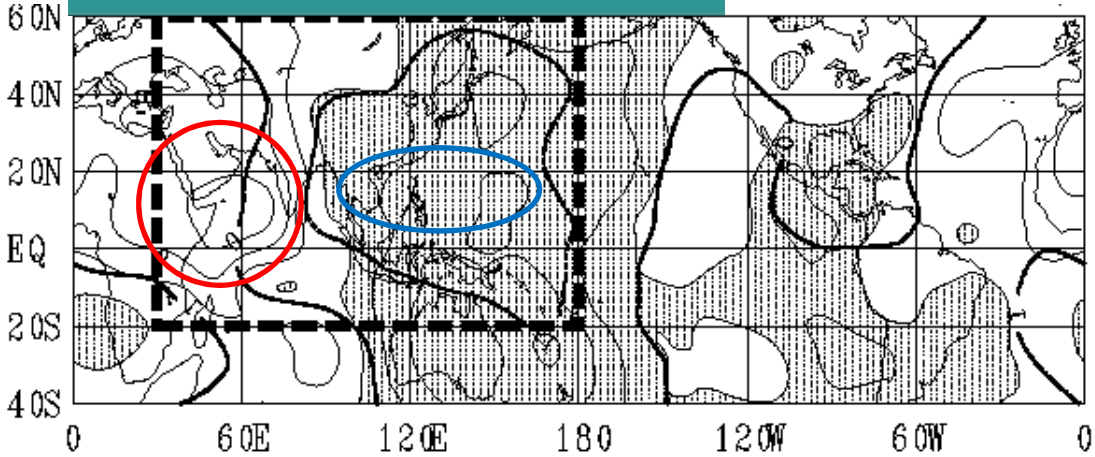


平年と同様に梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれを本州南岸に予測。また、沿海州付近に気圧の谷を予測。後者は1週目の影響が強い。

予報資料の解釈　１週目（5/31～6/6）

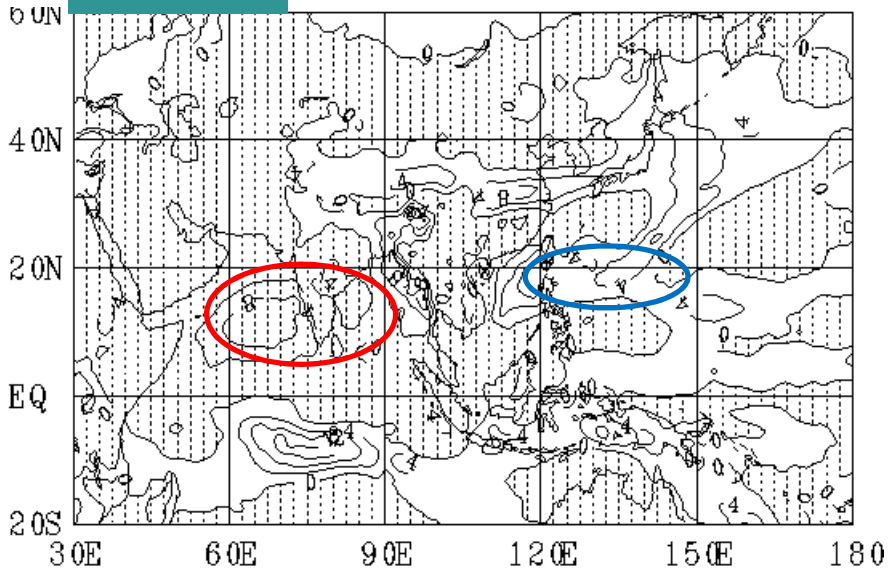
気象庁
Japan Meteorological Agency

200hPa速度ポテンシャル



インドシナ半島付近からフィリピンの東にかけて上層発散偏差対流活発。アラビア海付近で上層収束偏差。

降水量

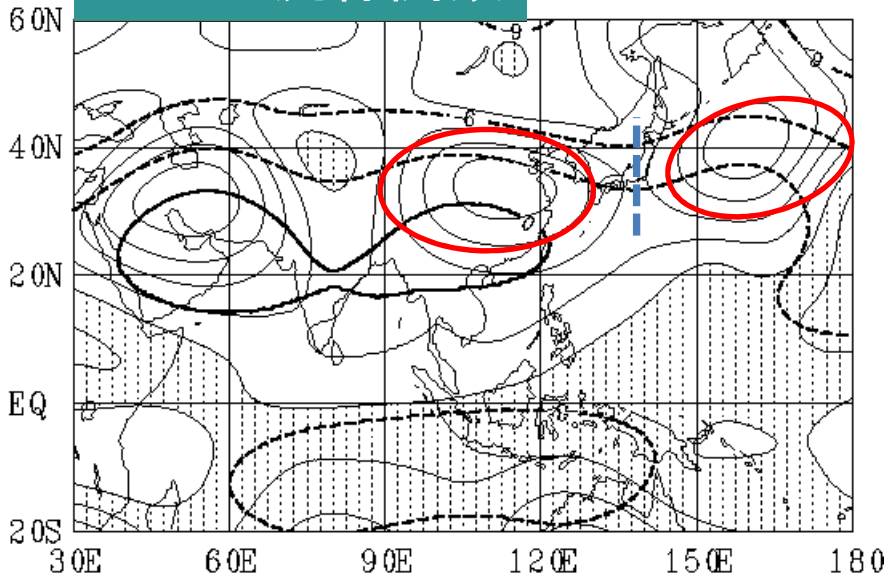


アラビア海からベンガル湾付近にかけて少雨偏差、南シナ海からフィリピンの東方海上にかけて多雨偏差。夏の熱帯季節内変動を反映。

予報資料の解釈　1週目（5/31～6/6）

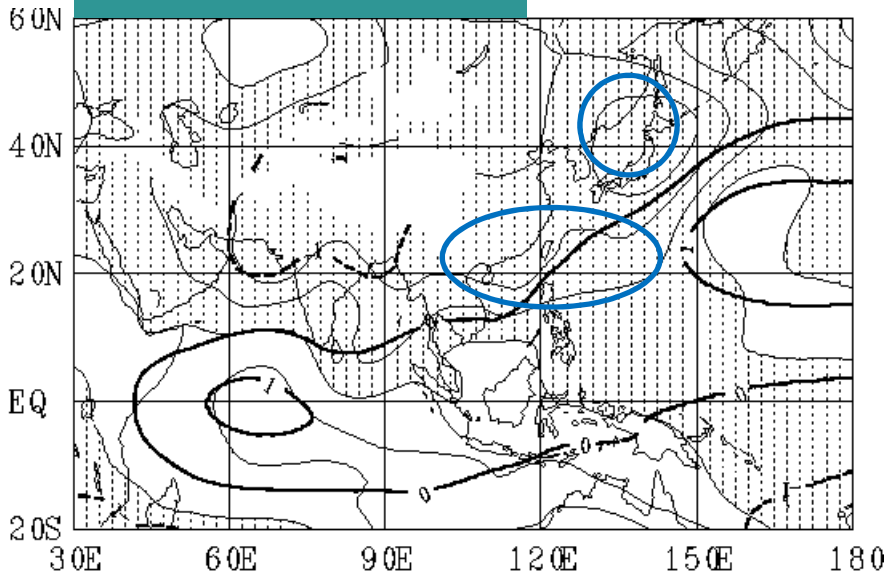
気象庁 Japan Meteorological Agency

200hPa流線関数



華中付近を中心に高気圧性循環偏差、日本の東で高気圧性循環偏差。その間の日本付近にトラフ。

850hPa流線関数

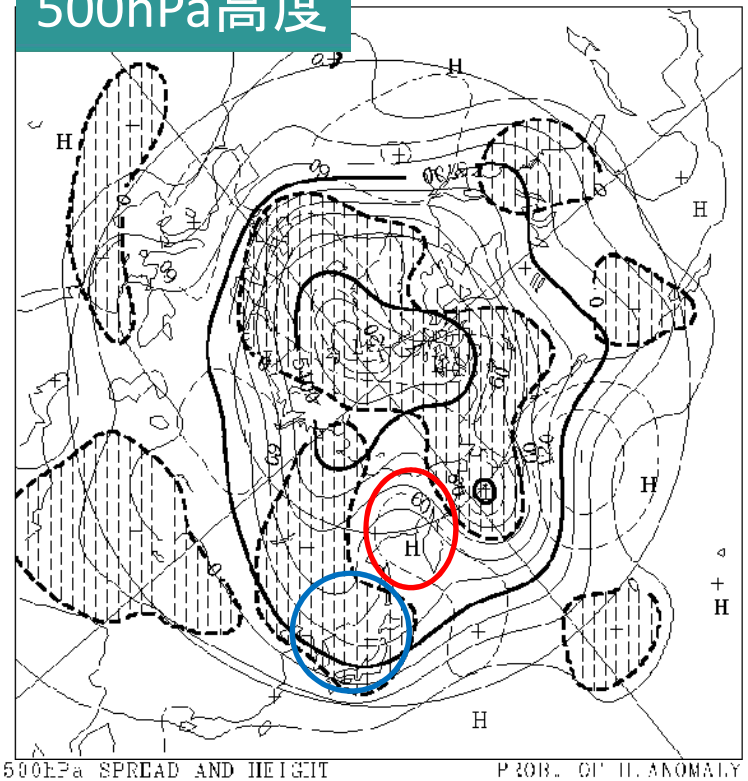


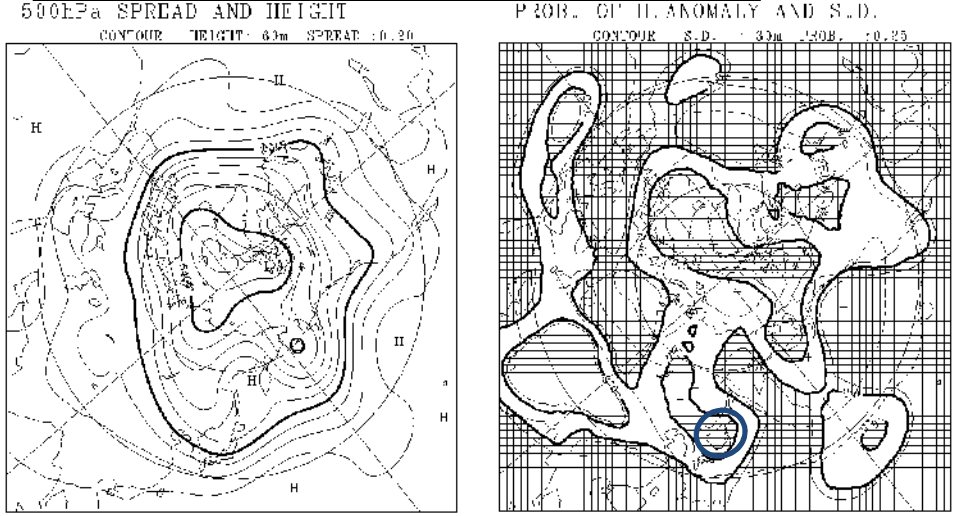
熱帯の対流活動に対応して、南シナ海から日本の南にかけて低気圧性循環偏差。上層のトラフに対応して、日本付近は低気圧性循環偏差。

予報資料の解釈　1週目（5/31～6/6）

気象庁
Japan Meteorological Agency

500hPa高度



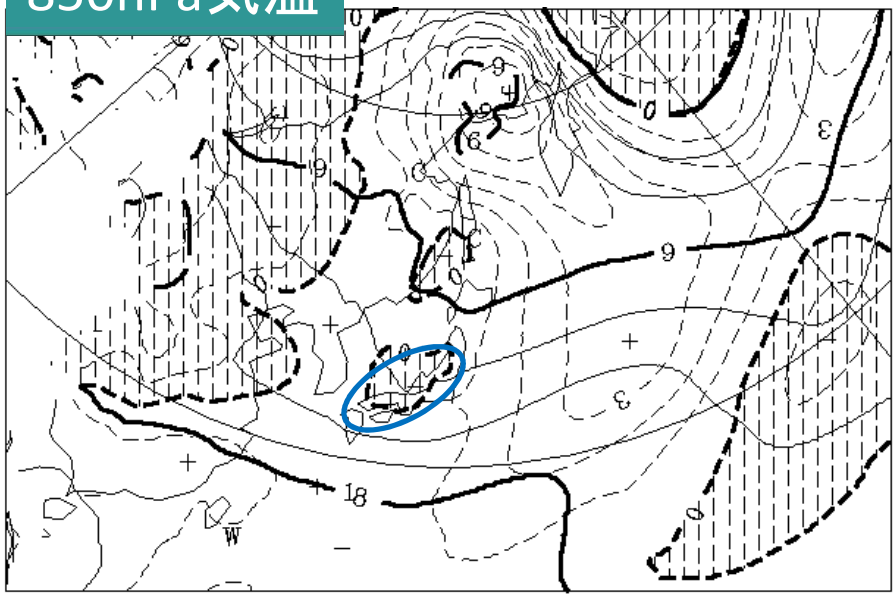


極東域で寒帯前線ジェット気流が大きく蛇行し、オホーツク海に強いリッジ。一方、日本付近はトラフで逆位相の流れ。北・東日本には負の高偏差確率50%以上の領域がかかる。

予報資料の解釈　１週目（5/31～6/6）

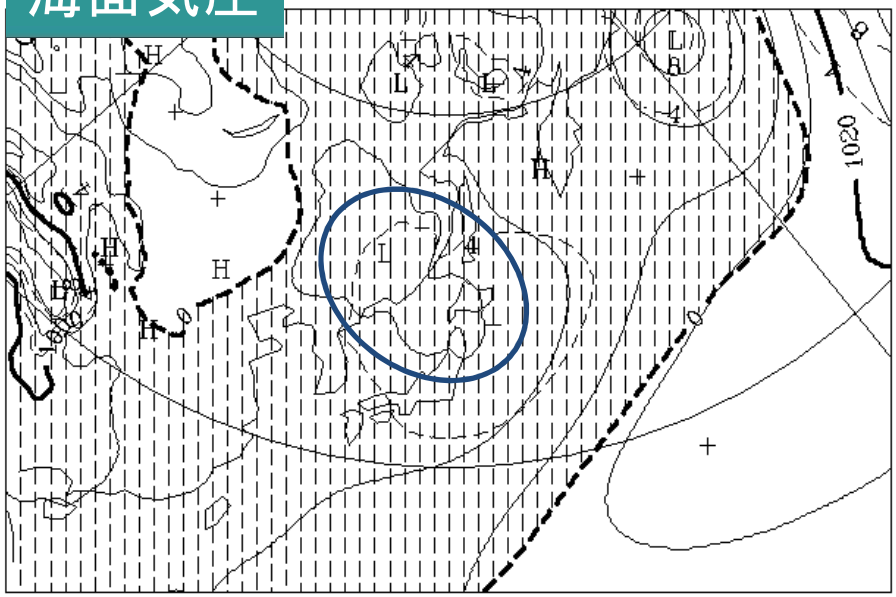
気象庁 Japan Meteorological Agency

850hPa気温



東・西日本には負偏差域がかかる。

海面気圧



上層のトラフに対応して、中国東北区から日本付近にかけて低圧部。

予報資料の解釈　１週目（5/31～6/6）

気象庁 Japan Meteorological Agency

想定される天候

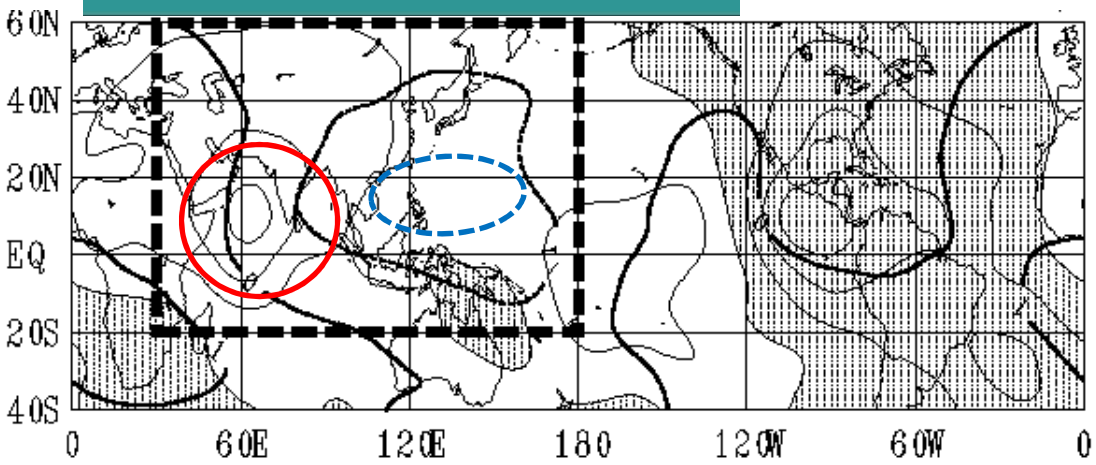
- 北日本と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- 東日本太平洋側と西日本では、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

＜気温＞
西日本で低温、東日本で低温傾向、沖縄・奄美で高温、北日本では平年並。
＜天候＞
・北日本では、低気圧や前線の影響を受けやすいため、多雨で寡照傾向。
・東・西日本では、低気圧や前線の影響を受けやすいため、多雨あるいは多雨傾向で寡照傾向。
・沖縄・奄美では、並雨並照。

予報資料の解釈　2週目（6/7～6/13）

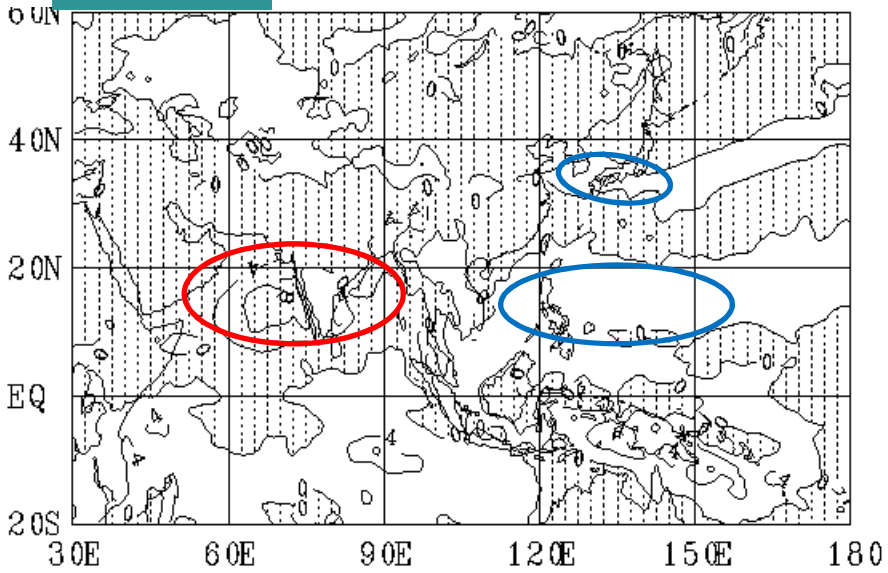
気象庁 Japan Meteorological Agency

200hPa速度ポテンシャル



南シナ海からフィリピン東方海上にかけて上層発散偏差（速度ポテンシャルは正偏差だが、周りより低く発散風偏差）、アラビア海を中心に上層収束偏差。

降水量

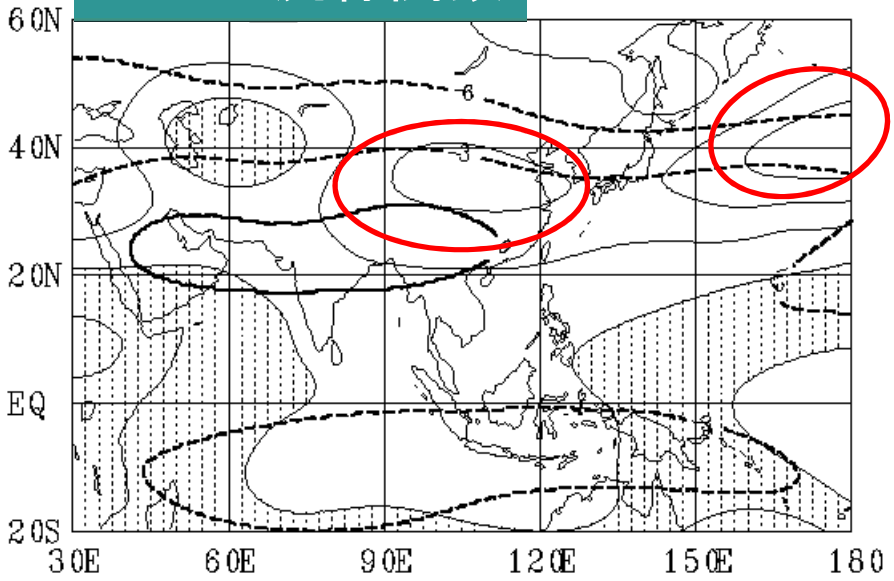


アラビア海からベンガル湾にかけて少雨偏差、南シナ海からフィリピン東方海上にかけて多雨偏差。西日本から日本の南東海上で多雨偏差だが、梅雨前線帯の北上バイアスに留意。

予報資料の解釈　2週目（6/7～6/13）

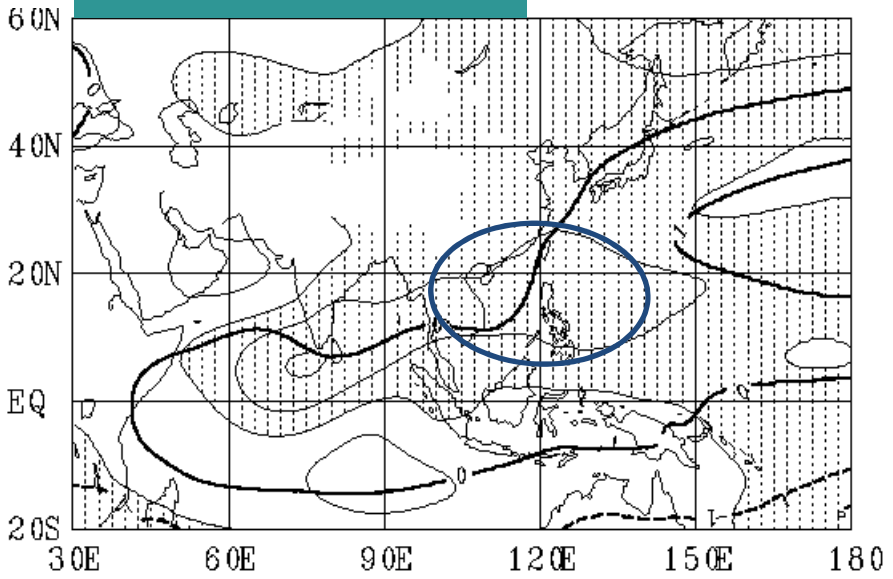
気象庁 Japan Meteorological Agency

200hPa流線関数



華中付近から東シナ海にかけてと日本の東に高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

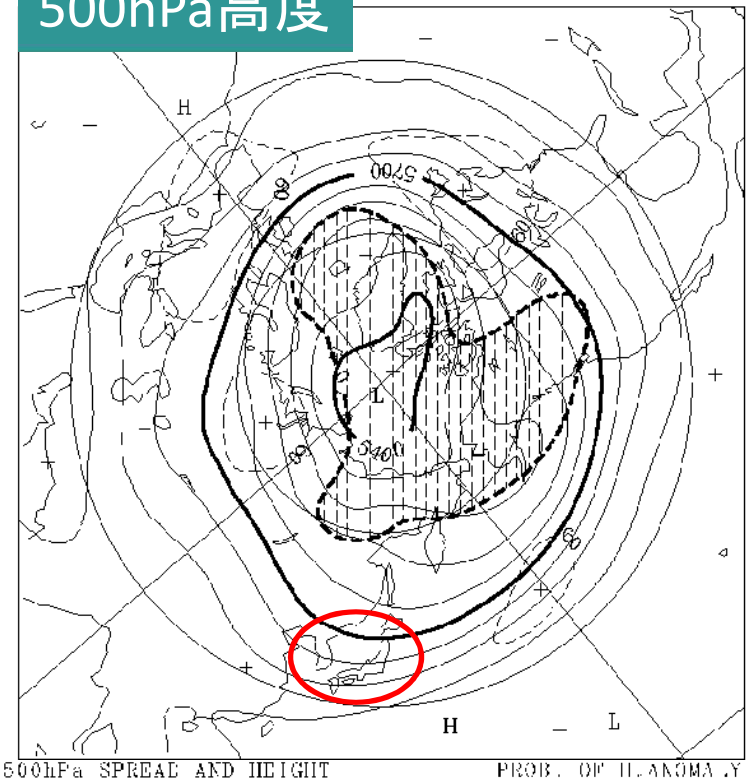


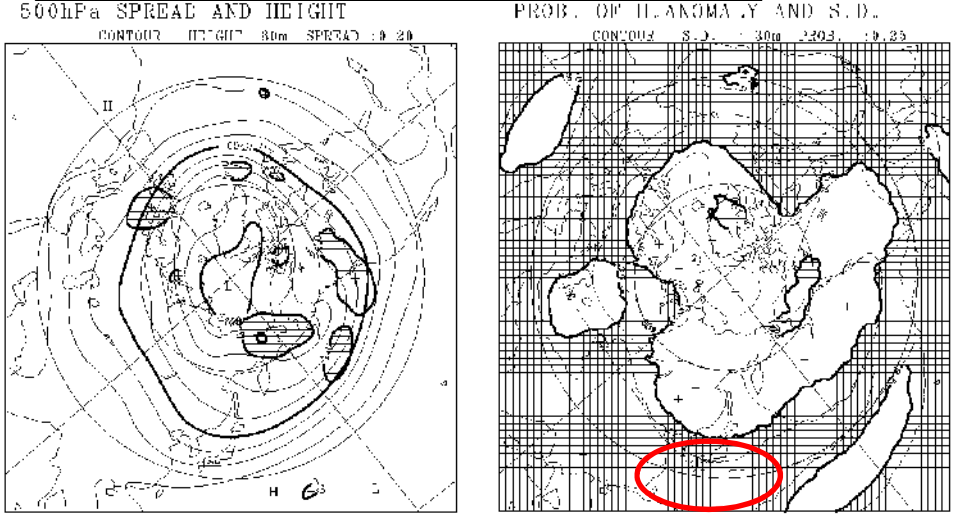
熱帯の対流活動に対応して、南シナ海からフィリピン東方海上にかけて低気圧性循環偏差。

予報資料の解釈　2週目（6/7～6/13）

気象庁
Japan Meteorological Agency

500hPa高度





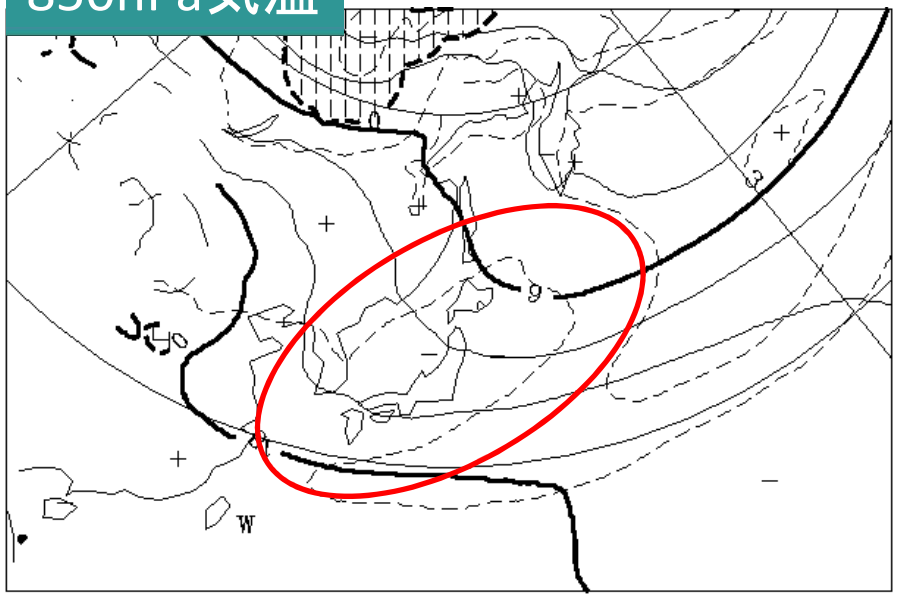
日本付近では、正偏差。

東・西日本と沖縄・奄美は、帯状に伸びる正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

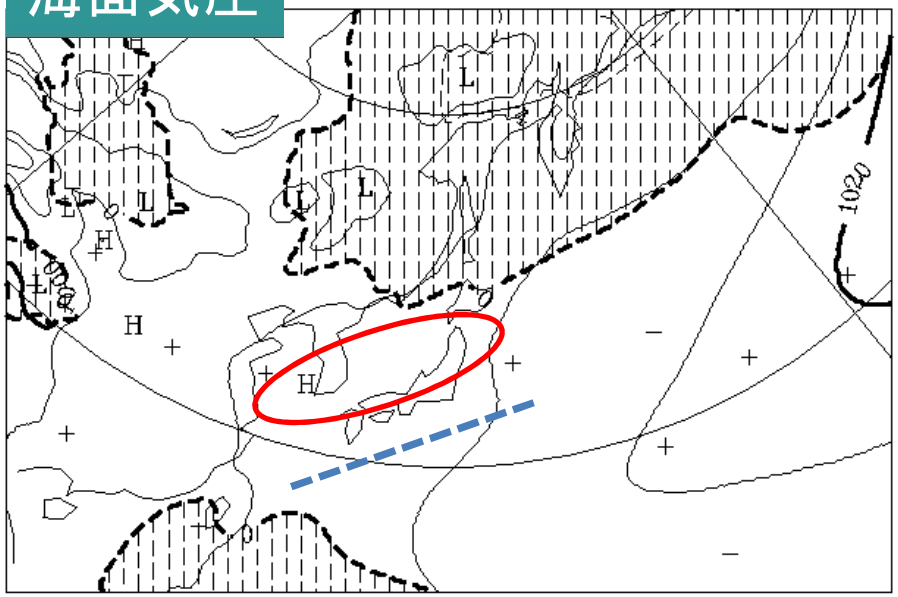
予報資料の解釈　2週目（6/7～6/13）

気象庁 Japan Meteorological Agency

850hPa気温



海面気圧



日本付近は正偏差。

梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれは本州の南。平年よりやや南。一方、日本海西部には高圧部が見られ、東日本と西日本日本海側を中心に、平年に比べ移動性高気圧に覆われやすい。

予報資料の解釈　2週目（6/7～6/13）

気象庁 Japan Meteorological Agency

想定される天候

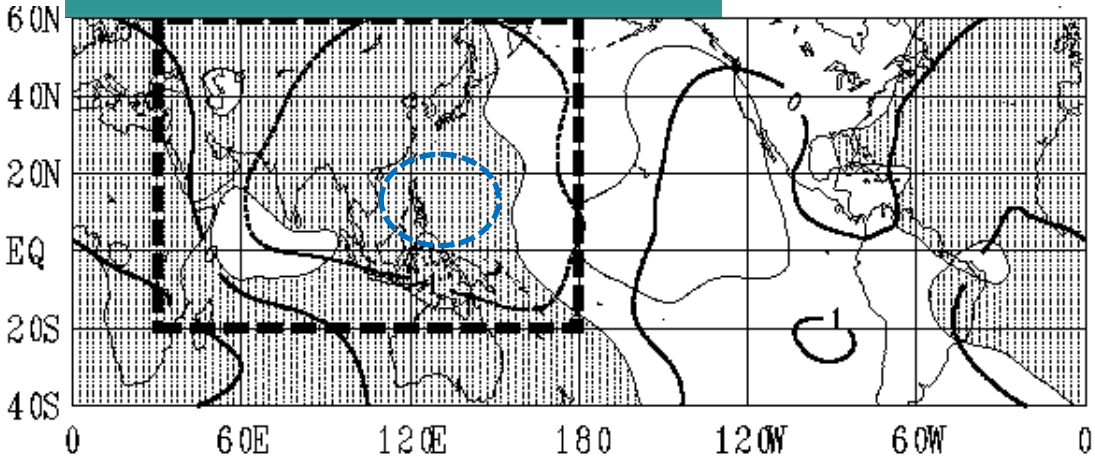
- 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、移動性高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- 東日本太平洋側と西日本日本海側では、移動性高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

＜気温＞
北日本と沖縄・奄美で高温、東・西日本で高温傾向。
＜天候＞
北日本、西日本太平洋側、沖縄・奄美では平年同様。
東日本と西日本日本海側では、移動性高気圧に覆われやすいため、少雨傾向多照傾向。

予報資料の解釈　3～4週目（6/14～6/27）

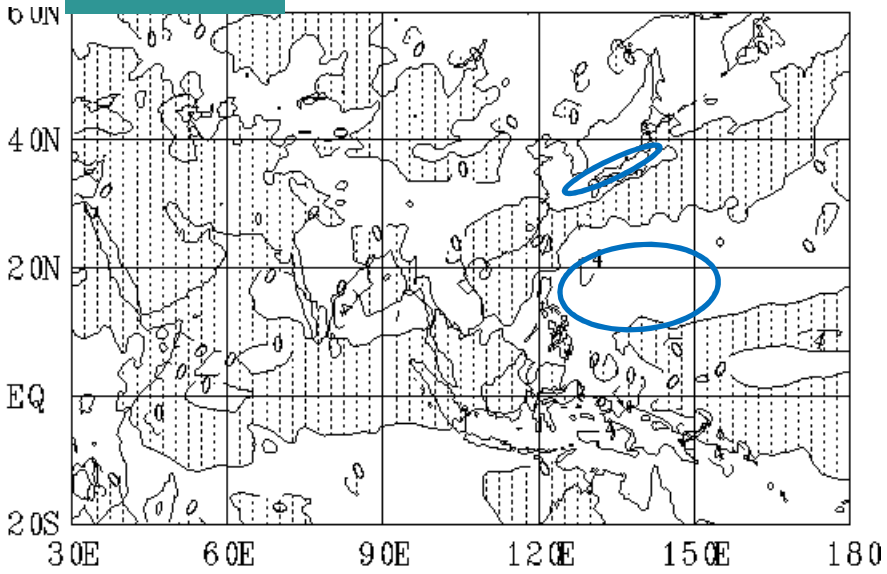
気象庁 Japan Meteorological Agency

200hPa速度ポテンシャル



フィリピン付近で上層発散偏差。

降水量

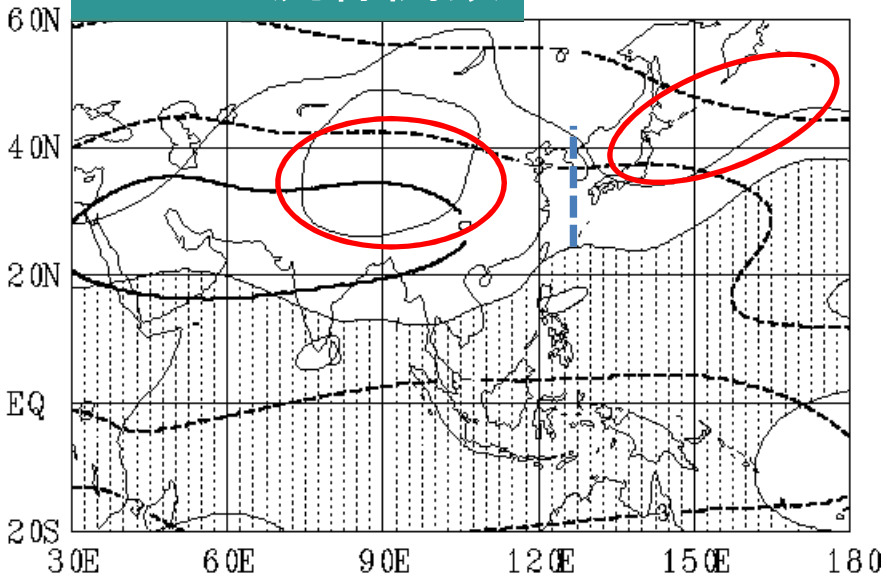


フィリピン東方海上で多雨偏差。日本付近は、やや多雨偏差で、梅雨前線帯に対応。北上バイアスに留意。

予報資料の解釈　3～4週目（6/14～6/27）

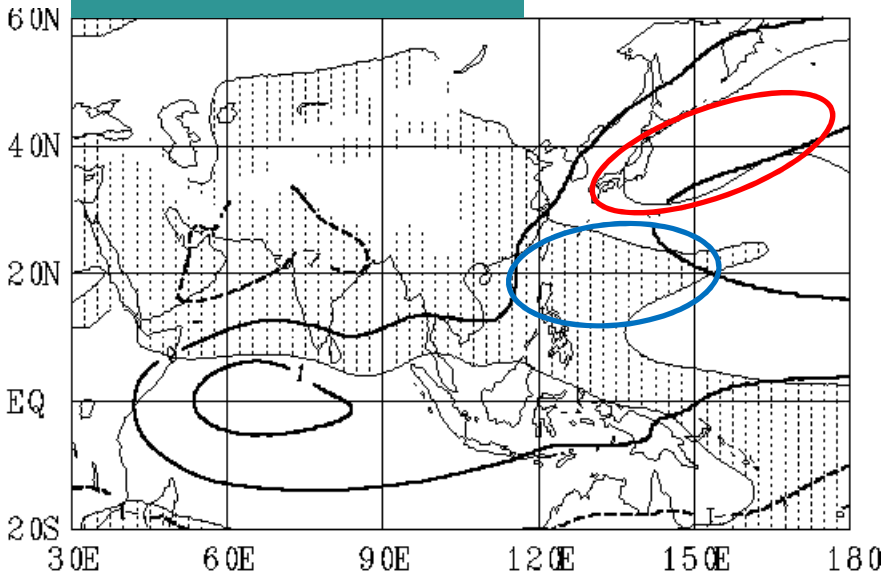
気象庁 Japan Meteorological Agency

200hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、チベット付近と日本付近で高気圧性循環偏差。朝鮮半島付近にトラフ。

850hPa流線関数

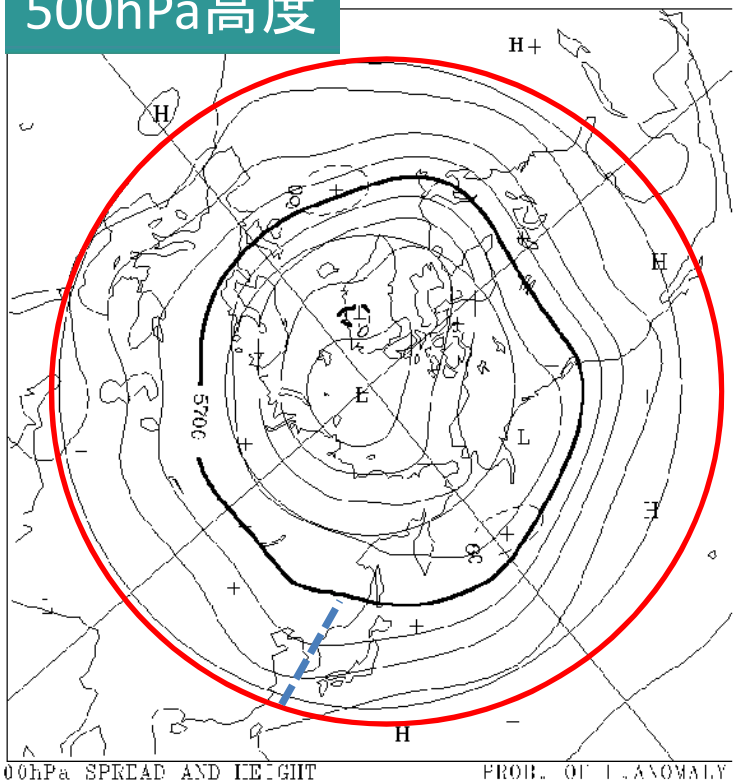


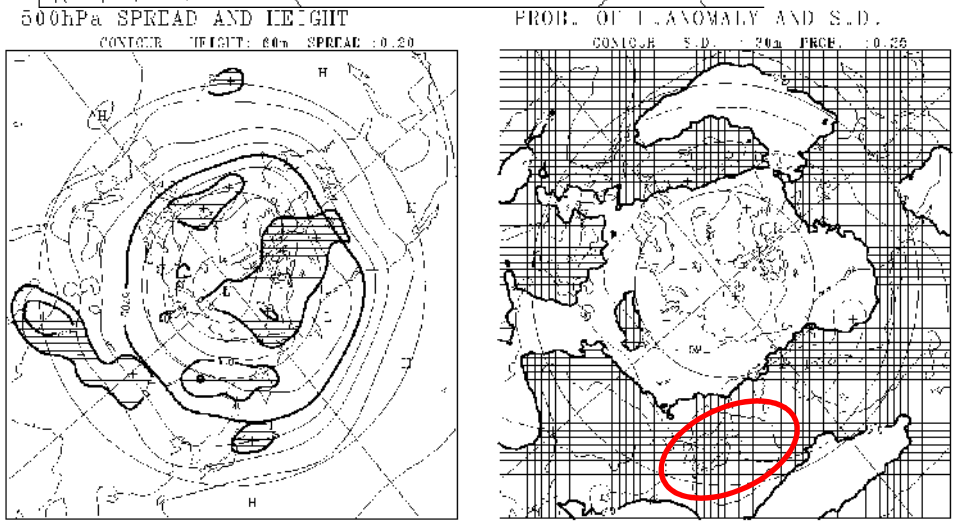
南シナ海からフィリピンの東方海上にかけて低圧性循環偏差。日本付近からアリューシャンの南にかけて高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈　3～4週目（6/14～6/27）

気象庁 Japan Meteorological Agency

500hPa高度



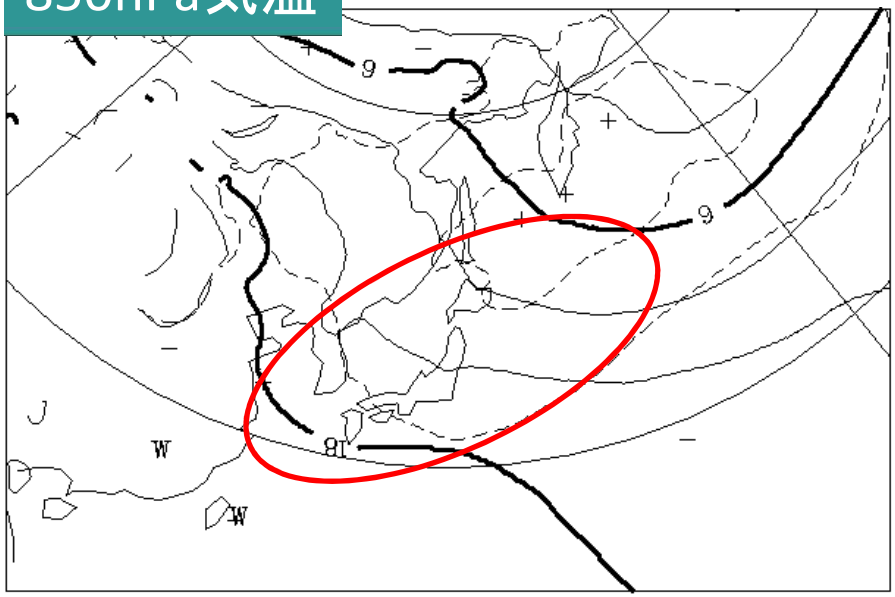


ほぼ北半球全域で正偏差。朝鮮半島付近にトラフがあり、日本付近は西谷傾向が平年より強い。また、日本付近は、全国的に東西帯状に伸びる正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

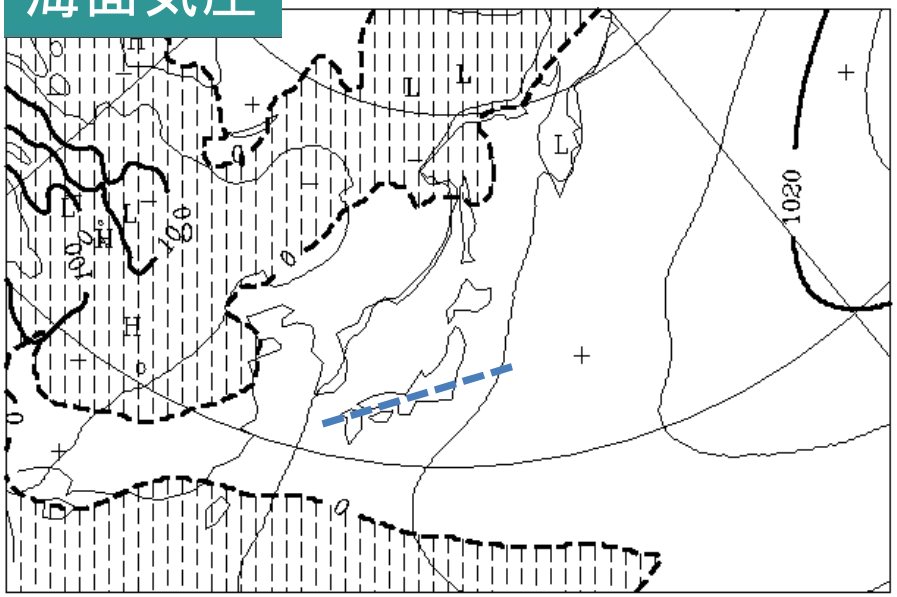
予報資料の解釈　3～4週目（6/14～6/27）

気象庁 Japan Meteorological Agency

850hPa気温



海面気圧



日本付近は全国的に正偏差。

梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれが、東・西日本付近に予測されている。ほぼ平年の位置で、天候の平年からの偏りに明瞭なシグナルはない。前線帯の南に位置する沖縄・奄美は太平洋高気圧に覆われやすい時期がある。

予報資料の解釈　3～4週目（6/14～6/27）

気象庁 Japan Meteorological Agency

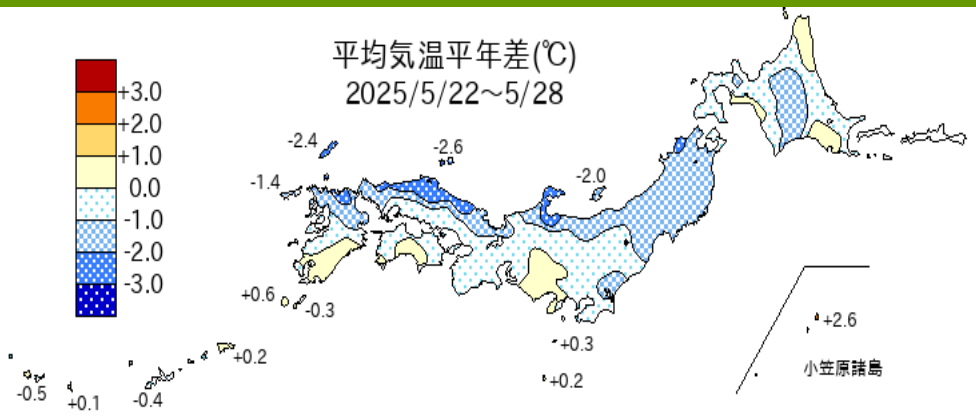
想定される天候

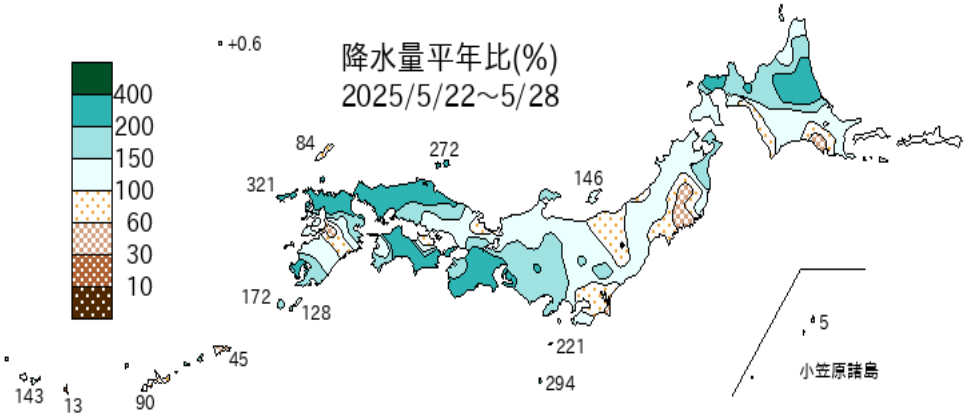
・　全国的に、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

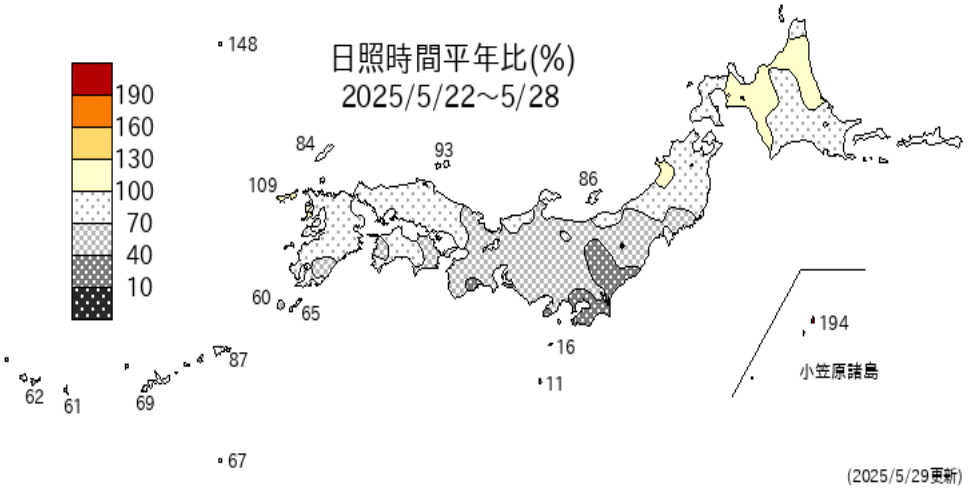
＜気温＞
全国的に暖かい空気に覆われやすく高温。
＜天候＞
全国的に平年同様だが、梅雨前線の影響を受けやすいため東・西日本太平洋側ではやや寡照、太平洋高気圧に覆われやすいため沖縄・奄美ではやや多照。

最近1週間の天候経過

気象庁
Japan Meteorological Agency







(2025/5/29更新)

All rights reserved. Copyright(c) Japan Meteorological Agency

最近1週間（5月22日～5月28日）は、低気圧や梅雨前線などの影響を受けやすかったため、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。このため、降水量は沖縄・奄美を除き平年を上回った所が多く、日照時間は全国的に平年を下回った所が多くなりました。気温は、晴れの日が少なく、また、期間の後半を中心に冷涼な空気に覆われやすかったため、全国的に平年を下回った所が多くなりました。